

「臨床入門 臨床実習の手引き」

佐賀医科大学助教授
佐賀医科大学助教授
川崎医科大学講師
佐賀医科大学教授
国立大阪病院内科
祐委会織田病院内科医長
佐賀医科大学・総合診療部
山口大学講師
桜町病院内科部長

福井次矢 編集
福井次矢
伴信太郎
幸田 弘
木戸友幸 執筆
西山雅則
白浜雅司
井上裕二
松井征男

専門課程も3年目に入り、患者さんと直に接して学ぶ機会が間近に迫ってきました。授業は受けてきたものの、いざ病棟へ行き患者さんに接するとなると、医学生としてどのように行動すればいいのか見当がつかず戸惑っていました。

そのようなときに出会ったのが、この「臨床入門—臨床実習の手引き」です。この本には、臨床医学に触れるに当たっての心構え、そして病歴のとり方、診察のし方、診察所見における異常と正常の判断、また

臨床検査の基本的知識とその進め方、診療記録のとり方、治療の決定、と患者さんに接した際に必ずしなければならぬ事柄が、順を追ってコンパクトにまとめられています。“病歴のとり方”では、患者さんと対話する際の、具体的な尋ね方や答え方、対話の進め方を、“診察のし方”では、診察室で患者さんと向き合ったとき、横に先生に付き添っていただいて、手取り足取り教えていただいている、と言っているほど、丁寧に書いてあります。また

“病歴は一度とったら二度と吟味しないというのではなく、病歴に基づいて診察所見を、診察所見に基づいて病歴を吟味し、また補う。”とか“診察では、いきなり聴診器を使うのではなく、患者さんと語らいながら皮膚の観察をする、といった視診から始める。”というように、医師には当たり前であっても、学生には不慣れであることがいろいろと指摘してあります。

私は今までこのような本を見たことがなかったので、とても心強く思いました。白衣のポケットに入りそうなほどコンパクトで、しかも箇条書きに近い形で書いてあるので、実習中にも活用しようと思っています。そして、この本の中にも書いてあったように、本の内容が頭に入っていて、いつでも応用ができるような医師を目指して、頑張っていきたいと思います。

(大阪医科大学5年生)
大歳えり子

●A5判変型 220頁 1991年
定価 2,987円(税込) 送料 300円

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)